

3. 自然環境の保全

目標指標 西山の森林の CO₂吸収量

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
1,436.00 t-CO ₂ 以上	1,503.74 t-CO ₂



(1) 西山の保全・再生・活用

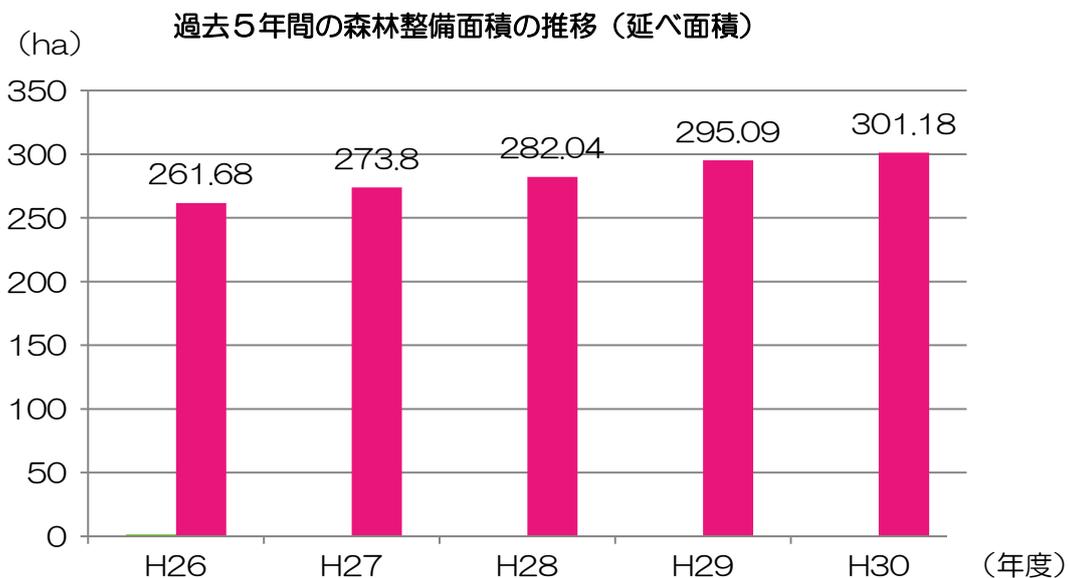
①西山の森林整備

森林整備面積（竹林含む）

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
延べ 296.00 h a	延べ 301.18 h a



森林整備とは、森が健全に育成し、地下水の保全などの機能を維持していくために行うものです。間伐と言って木を間引いたり、枝をはらったりして、木の成長を助けます。このような整備で、木が吸収する二酸化炭素の量が増え、地球温暖化対策にもつながっています。平成 30 年度は 6.09 h a の整備を実施し、延べ 301.18 h a となりました。



森林整備面積のうち利用間伐面積

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
延べ 12 h a	延べ 11.78 h a

長岡京市では、森林を整備して出た木材等を利用する「利用間伐」を進めています。平成 23 年 11 月には、「公共建築物等における長岡京市産材の利用促進に関する基本方針」を策定しました。

平成 30 年度は、第 10 回環境フェア記念コースター、西代里山公園の間仕切り・ロッカー、北開田児童館のテーブル、市議会の議員名札等に利用しました。

※間伐（かんばつ）…健全な森林育成のために樹木を間引くこと。



配布した記念コースター

②西山の生態系の保全

モニタリング 1000 里地調査の支援

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
調査項目 4 項目	調査項目 3 項目

環境省が実施するモニタリングサイト 1000 里地調査に、市が参画する西山森林整備推進協議会が参加しています。この調査は、全国の多数の場所で統一した方法により、各種生物の調査を行うものです。長岡京市内では、西山をフィールドとして哺乳類、鳥類、チョウ類、植物相の 4 項目の調査を実施しています。継続的に調査をすることで、この区域に住む生物の保全につなげていきます。平成 30 年度は、調査員の負担などを理由に鳥類調査が中止となりましたが、令和元年度は再度鳥類調査を実施する運びとなっています。また、調査開始から 10 年を迎え、環境フェアにおいてその総括を展示発表しました。



③西山の有効活用

西山キャンプ場の有効活用

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
老朽化した付帯設備等の修繕と有効活用	老朽化した付帯設備等の修繕と安定的な活用

平成 30 年度は、台風等の影響により破損した橋、給水管の修繕を行いました。また、川岸を修繕し、通行できる道幅を確保し、安全に通行できるようにしました。活用については、自然体験の場としての安定的な活用を進めました。



④森林組合の育成

森林組合の組織運営維持

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
組合員数 104 人	組合員数 104 人

西山の森林整備を進めるために、長岡京市森林組合の組織運営、森林整備活動、研修、イベント参画などの活動を事務局として支援しました。



(2) 竹林の保全・再生・活用

①竹林の整備

竹林整備面積

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
延べ 18.14 h a	延べ 20.32 h a

西山の住宅地に接する部分の多くが竹林です。ブランドの長岡京のたけのこを産出する場所ですが、住宅地に近いため、放置されると通行を妨げ、森林に侵入して竹林が広がっていくこともあります。

そのため、森林の整備とともに竹林の整備も行っています。今後も引き続き、平成 27 年 4 月に改定した西山森林整備構想における最優先課題として竹林整備に取り組んでいきます。



②竹の利活用の調査研究

竹粉・竹チップの累計活用量

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
累計 68m ³	累計 74.1m ³

多くの竹林を持ち、タケノコを特産物とする乙訓 2 市 1 町（向日市、大山崎町、長岡京市）では、伐採された竹の処理方法が共通の課題です。

平成 29 年度は、防草剤として竹チップを活用するなどしましたが、平成 30 年度は利用がありませんでした。目標数値は達成している状況ですが、放置竹林問題の解決のためには、持続可能な方法で安定的に竹粉・竹チップが活用できる仕組み作りを確立する必要があります。平成 30 年度の調査研究に引き続き、農業者や竹林整備団体、事業者などにヒアリングを行い、課題整理と課題解決に向けた検討を行います。



(3) 環境にやさしい農業の推進

①低化学肥料農業等の推進

有機栽培に対する補助金の交付

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
300 千円/年	300 千円/年

特産品の花菜の^{ほじょう}圃場に使用する有機栽培のためのたい肥購入に補助金を交付しています。現在、長岡京市の 29 戸の農家で栽培している花菜は、平成 2 年に「京のブランド産品」の指定を受けるとともに、平成 17 年から「京都こだわり生産」の認証を受けています。



花菜（はなな）

②市民農園の充実

シルバー農園の運営

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
利用者数 181 人 (最大定員)	利用者数 165 人

長岡京市では、高齢者の生きがいづくりのために 60 歳以上の方を対象とした「シルバー農園」を運営しています。

市内 3 カ所の農園で、165 人の方が利用されています。農地の確保が難しい現状もありますが、利用者の健康増進に向けて、今後も継続的な運営を行っていきます。



③地産地消の推進

地産地消推進協議会の開催による取組みの充実

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
学校給食納品額 944 万円	学校給食納品額 721 万円

長岡京市の全小学校と平成 30 年度に給食を開始した長岡第二中学校と長岡第四中学校で、地元産の野菜を給食に使用しています。

平成 30 年度は、給食材料費の 2.8%が地元野菜の購入費となりました。

特産のナスやタケノコ、花菜なども提供されており、子どもの食育の面からも効果をあげています。



④農地の保全

農地パトロールの実施及び農地銀行制度の活用

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
遊休農地 11.0ha 以下	遊休農地 12.8ha

長岡京市の農地は、平成 30 年度末現在で 252.3ha あり、そのうち 12.8ha (5.0%) が遊休農地となっています。

遊休農地とは、農作物を収穫するために使われていない農地のことです。農地の適正な管理やまちなかに多くの農地がある景観保全の観点からも、今後も農地パトロールの実施や、農地銀行制度等の周知を図っていきます。(※農地銀行制度…農家間で農地の貸し借りを円滑に行うための本市独自の制度。農業委員会が仲介を行う。)



(4) 水辺環境の保全・再生

①河川・水路の維持管理

河川清掃支援

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
参加者数 280 人	参加者数 262 人

河川や水路などの清掃を行う個人や団体にごみ袋を交付しています。近年、集中豪雨などにより水路などが氾濫する危険もあります。地域の方による日頃の清掃活動やポイ捨てをしないなどの行動がまちを守ることにつながるため、今後も引き続き支援を行います。



②ホタルの保護と育成

ホタルの人工飼育、保護育成の市民啓発・小泉川流域での河川清掃

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
ホタルの生息地域 西代橋～菩提寺橋まで拡大・観賞の夕べ、捕獲防止パトロールの実施	ホタルの生息地域 西代橋～菩提寺橋まで拡大・観賞の夕べ、捕獲防止パトロールの実施

長岡京市西部を南北に流れる小泉川には、ゲンジボタルやヘイケボタルが生息しています。特にゲンジボタルは、水がきれいなところでしか生息しないとされており、市内でも数が減少していました。そのため、長岡京市では「長岡京市ゲンジボタルを育てる会」とともに、河川清掃や卵からの人工飼育を行って、ホタルの保護と育成に取り組んでいます。



4. 快適な都市環境づくり

目標指標 住民一人あたりの公園面積

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
住民一人あたりの公園面積 3.13m ²	住民一人あたりの公園面積 3.29m ²



(1) 身近な緑の保全・創出

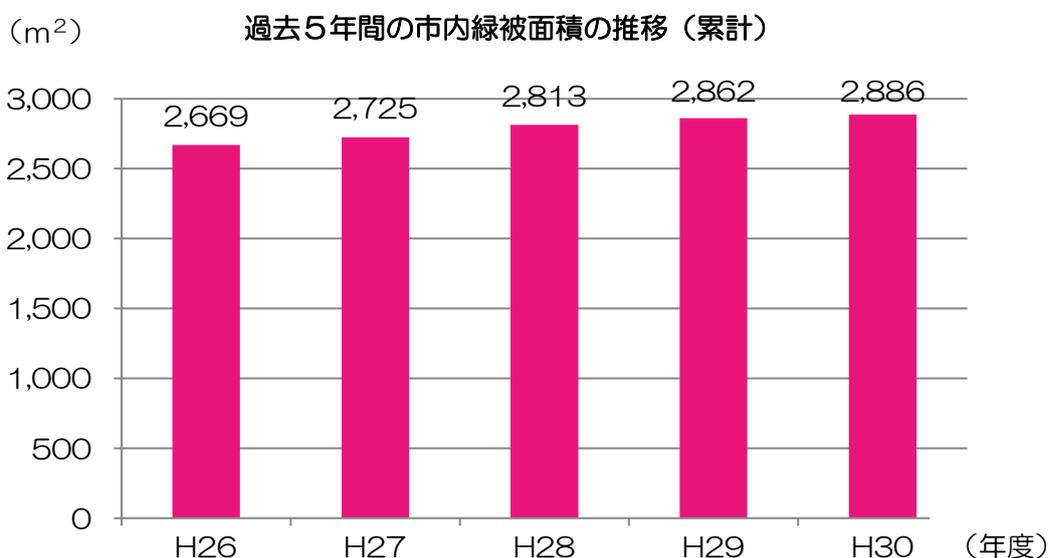
① まちなかの緑の創出

まちなかの公共空地等に植栽

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
まちなかに創出した緑被面積 累計 2,900m ²	まちなかに創出した緑被面積 累計 2,886m ²



緑の基本計画に基づき、まちなかに緑を増やし、魅力あるまちづくりを行うとともに、生物にとっても住みやすい環境づくりを行っています。



緑の講習会参加数・グリーンカーテンコンテスト等への応募数

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
参加・応募者数 455 人	参加・応募者数 293 人



住宅が多い長岡京市のまちなかでは、緑は貴重な資源です。

長岡京市では、緑ゆたかなまちづくりを推進するため、(公財)長岡京市緑の協会と連携し、緑の講習会やグリーンカーテンコンテストなどを実施しています。

平成 30 年度のグリーンカーテンコンテストにおいては、家庭部門 (30 件)、団体部門 (10 件)、合計で 40 件の応募がありました。

②公園緑地の整備・維持管理

新規公園の整備・既存公園の維持管理

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
住民一人あたりの公園面積 3.13m ²	住民一人あたりの公園面積 3.29m ²



※京都府下の平均 7.74m² (平成 28 年度)

本市は、市域が狭いうえ、約 4 割が西山に覆われており、自然公園や運動公園などの大規模な公園整備は難しい状況ですが、平成 28 年度には 2.2ha という広大な西代里山公園が完成しました。

今後も市民が憩える公園づくりや管理に取り組んでいきます。



平成 28 年 5 月開園 西代里山公園

③緑の協会と連携した緑化の推進

みどりのサポーター制度の普及

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
みどりのサポーター数 102 団体	みどりのサポーター数 100 団体



平成 16 年 10 月から始まったみどりのサポーター制度は、市内の公園や道路の掃除や植栽などを行うグループを支援する制度です。平成 30 年度は前年度から 5 団体増えて、100 のサポーター団体が市内全域で活動を展開しました。

緑の協会に登録を行うと、花苗の提供や清掃用具の貸出などの支援が受けられます。「公園が雑草ではなく、草花がいつも咲いている場所にしたい。」「家の近くの道路はいつもきれいにしていきたい。」など様々な思いを持って、平成 30 年度は 1,343 人のサポーターが活動しました。

(2) 環境に配慮した都市の整備

①中心市街地における環境配慮型の都市基盤整備

歩道の透水性舗装や車道の遮熱性舗装の施工

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
長岡京駅前線整備に係る設計に反映	長岡京駅前線整備に係る設計に反映



歩道に雨水がたまりにくくするための「透水性舗装」や都市のヒートアイランド現象の抑制につながる車道の「遮熱性舗装」は、平成 25 年度に行った長岡京駅前線第 3 工区（産業文化会館前までの 111m）の詳細設計に反映し、令和元年度の工事完了を予定しています。

供用開始後は、道路拡幅により、車両走行性が向上することから、拡幅部分の渋滞緩和も期待されます。

阪急電鉄の高架化の検討

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の策定	阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の策定

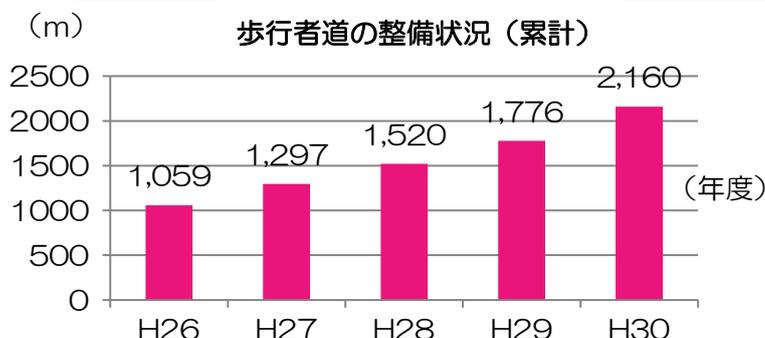


平成 30 年度に阪急長岡天神駅周辺のまちづくりについて、シンポジウムや市民アンケート、意見交換会など多様な方法を用いて多くの市民意向を把握し、その結果を踏まえ平成 31 年 3 月に「阪急長岡天神駅周辺整備基本計画」を策定しました。今後は、阪急電鉄の高架化を前提とした新たなまちづくりの創出を推進していきます。

②歩行者優先の道路空間整備

歩行者道の整備・電線類地中化の推進

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
180m	384m



歩道の拡幅整備事業として平成 30 年度も、29 年度に続き、高台 2 丁目、3 丁目地区において、延長 384m の歩行者道の整備を行いました。今後も歩行者が歩きやすいよう整備を行っていきます。

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
長岡京駅前線整備に係る設計に反映	長岡京駅前線整備に係る設計に反映

電線共同溝は、平成 25 年度に行った長岡京駅前線第 3 工区の詳細設計に反映し、事業に取り組んでいます。平成 30 年度は電線共同溝の幹線部及び柵部を敷設しました。令和元年度は前年度に完了していない管路の敷設工事、電線の地下化工事、既設電柱の抜柱工事を行い、全ての工事が完了する予定です。

※電線共同溝工事とは、電線の設置・管理を行う 2 以上の事業者の電線を収容するため、道路管理者が道路の地下に設ける施設であり、道路上にある電柱を撤去し、電力線・通信線を地下に収容することにより快適な歩行空間の確保、景観の向上を図ることを目的としています。

③個性ある景観の保全・形成

「長岡京市景観計画」の内容見直し

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
新景観計画策定（「長岡京市景観計画」の変更）	新景観計画策定（「長岡京市景観計画」の変更）

市域を 4 つの区域、3 つの軸、1 つの重点地区に区分した新景観計画を策定し、これまで市内一律であった景観形成基準を地域の特性に合わせた基準に見直しました。

策定にあたっては、都市計画審議会、まちづくり審議会及び同審議会景観専門部会で議論したほか、パブリックコメントの実施や市民、事業者向けの説明会を 2 回開催しました。

(3) 歴史文化資源の保全・活用

①歴史的な名所の活用

神足ふれあい町家の活用

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
入館者数維持 (平成 26 年度現状値: 17,975 人)	19,383 人

神足ふれあい町家は、西国街道沿いにある江戸時代末期の商家です。風情ある町家建築の建物で、平成 12 年に国登録の有形文化財に指定されました。現在は、和室などをイベントスペースとして貸し出しています。こうした歴史的な建物や名所を活用し、多くの人に訪れてもらうことで、長岡京市らしい文化やまちなみを今後も継承し、保全していきます。



②ふるさと資料館の整備

埋蔵文化財センターの啓発事業参加者数

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
参加者数 3,600 人	参加者数 3,882 人

平成 30 年度は、埋蔵文化財調査センターでの常設展示のほか、特別企画展示や発掘調査現地説明会、体験イベントや小中学校と連携した事業を行うなど、弟国宮遷都 1500 年関連の催しを含め多角的に事業を展開し、前年度より 1,034 人多い参加者を得ました。

(仮称)ふるさと資料館の整備については、現在検討を進めている新庁舎の中に、「歴史資料展示スペース」を確保するため、関係課と協議を行っています。



(4) 環境美化の推進

①地域の清掃活動の促進

530運動参加団体への支援

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
支援継続	支援継続 (69 団体)

530運動とは、ごみを拾うことにより捨てない心を養い、散乱するごみの現状を自分たちの問題として考えようという運動です。5月30日(ごみゼロ)にちなんで、毎年この時期に、市内事業所や自治会なども参加して行っています。市では、この運動に参加していただく団体に、ごみ袋の配布や火ばさみなどを貸し出して、支援しています。平成 30 年度は 8,508 人の参加がありました。



②散乱ごみのない美しいまちづくり

美化パトロール・ワンワンパトロールの実施

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
美化パトロール実施回数 16 回/月 2 回/日 ワンワンパトロール 2 回/日	美化パトロール実施回数 20 回/月 2 回/日 ワンワンパトロール 2 回/日



ポイ捨て防止の指導・啓発を行ったり、散乱ごみを回収したりするなどのパトロールを行っています。回収したごみの量は、たばこ 14,368 本、缶・ビン・ペットボトル 437 本でした。

(5) 適切な環境管理

①環境調査の推進

各種環境調査の実施・小畑川、小泉川の水質保全

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
基準超過件数の減少 (現状値：10 件)	基準超過件数 10 件
小畑川・小泉川 透視度：30 cm 以上 BOD：2 mg/ℓ 以下 PH：6.5～8.5 の維持	小畑川・小泉川 透視度：30 cm 以上 BOD：0.8 mg/ℓ・0.5 mg/ℓ 未満 PH：8.0・8.2



市では、変化する地域の生活環境を継続的に把握するため、独自に河川水質、自動車騒音、環境騒音、窒素酸化物、農業用井戸水の調査を行っています。平成 30 年度の調査では、212 項目中 10 件で基準値を超過しました。毎年 10 件前後の基準超過が見られますが、いずれも一時的なもので、特に異常は見られませんでした。

②環境保全に係る啓発

生活環境向上のための啓発

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
広報紙・市ホームページへの 生活環境マナー啓発記事の掲載	広報長岡京 2 回掲載 市ホームページ掲載



広報長岡京に啓発記事を 2 回掲載するとともに即時的な内容のものはホームページに掲載し、啓発に努めています。

5. 協働・環境学習・エコアクションの推進



環境ボランティア養成講座の延べ受講者数

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
受講者数延べ 100 人	受講者数延べ 88 人

(1) 市民活動サポート機能の拡充

①市民活動サポートセンター機能の拡充

市民活動サポートセンターの管理運営

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
市民活動サポートセンター 団体登録数 138 団体 ネットワークに関する相談件数 延べ 63 件	市民活動サポートセンター 団体登録数 186 団体 ネットワークに関する相談件数 延べ 20 件



市民活動サポートセンターは、社会貢献活動を行う市民活動の拠点施設です。市民活動についての相談・アドバイスをはじめ、団体同士や団体と市民のネットワークづくりの支援を行っています。登録団体数は前年度より増加しましたが、相談件数は減少しています。今後は、団体交流会などを行うほか、地縁団体とも連携することでネットワークに関する相談を増加させていきます。

②各種団体・サークル等活動の支援

環境団体・サークル等の担い手発掘に向けての支援

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
ステップアップ・チャレンジ会議の 運営/イベントを通じた活動紹介	ステップアップ・チャレンジ会議の 運営/イベントを通じた活動紹介



ステップアップ・チャレンジ会議は省エネ推進チームと環境検定チームの2つが、省エネの啓発は環境意識の高揚に取り組んでいます。今後も、環境フェアなどのイベントを通して、活動の紹介やメンバー募集を行い、事業の推進とともに、新たな担い手を発掘する機会を作り、活動の裾野を広げていきます。

③中間支援組織母体の立ち上げに向けたプラットフォームづくり

団体間連携の促進

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
交流会等の開催	イベントを通じた交流

環境フェアやサポセンフェスティバル等のイベントを通じて団体間の交流を図りました。



(2) 環境を担う人づくり・人結び

①環境活動を担う人づくり

地域の環境活動を担う人材養成講習会・研修会の実施

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
受講者数延べ 100 人	受講者数延べ 88 人

平成 31 年 3 月に西山森林整備推進協議会主催で、森林ボランティア養成講座（受講者 7 人）を実施しました。当日は小学生から 70 代までの幅広い世代の方が参加し、西山の取り組みについての説明と安全面についての講習の後、竹林に入って整備作業を体験しました。実習にあたっては、市内の 2 つのボランティア団体にもご協力いただき、団体紹介やメンバー募集、意見交換など交流を図り、参加者がボランティアとして一歩を踏み出すための工夫を心がけました。



<教員向け>西山の自然を活用した環境学習のオリエンテーションの実施

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
延べ 144 人	延べ 153 人

小学校で西山をフィールドとした環境教育を積極的に行ってもらうため、新任の教員や長岡京市に初めて着任した教員向けにオリエンテーションを実施しています。平成 24 年度からはじめたオリエンテーションは、各小学校に周知されたこともあり、受講者数も定着してきました。（H30 年度：19 人）実地研修では、西山で活動しているボランティア団体の方に案内や説明のご協力をいただき、教員とボランティア団体との連携を図るとともに、環境学習や遠足に活かせる様、より実践的な研修を目指しています。講習内容は、シカやイノシシ等の野生生物の生態についてや、西山の自然観察等についてでした。



西山での研修の様子

②グリーンコンシューマー活動の支援

グリーンコンシューマー活動の支援

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
啓発活動の実施	市役所における グリーン購入の推進

市役所では、文具類や紙類などの117品目をグリーン調達品目として、グリーン購入を推進しており、平成30年度のグリーン購入比率は、99%を維持し定着しています。

平成30年度については、具体的な啓発活動の実施には至りませんでした。今後は事業所に対しクールチョイス等の啓発を行うことで、結果として消費者にも、環境に配慮した消費行動をとっていただけるよう取り組みを進めます。



③環境地域通貨の導入

エコストアを活用した地域通貨の検討

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
実施	他市事例の研究

環境地域通貨とは、環境負荷を減らすために地域内で循環し、何らかの価値を持ち流通する通貨をさします。環境という分野に捉われない形での地域通貨の検討は、平成29年度まで市内ワーキンググループで検討しましたが、具体的な結論には至っておりません。平成30年度は、29年度までの検討を踏まえ、他市事例の研究を行いました。地域通貨の成功事例が少ないことなどから、今後は、事業所に対し、環境に配慮した運営を行うことで、消費者に対しても環境に配慮した消費行動を促していただけるよう、クールチョイス等の啓発を行います。



(3) 環境学習の推進

①環境学習の機会づくり

小中学校の環境学習の充実

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
各学年指導時間数 小学校 20 時間/学年・年以上 中学校 5 時間/学年・年以上	各学年指導時間数 小学校 17.12 時間/学年・年 中学校 15.13 時間/学年・年



環境学習は、すべての小中学校で実践されており、各学校で行われている環境に関する学習時間を合計し、一学年の平均学習時間を割り出しました。また授業時間中だけでなく、休み時間や放課後などの取り組みも充実しています。内容は学校により特色があり、学校農園による栽培活動、雨水タンクの活用、生ごみのたい肥化、田植え、ホタルの孵化活動、太陽光や水力などエネルギー学習、しいたけの菌打ち体験などです。

環境学習会等の開催回数・参加者数

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
開催回数 10 回 参加者数 310 人	開催回数 11 回 参加者数 307 人

出前講座（5 回）・環境講演会（2 回）・スターウォッチング（夏/冬）・バードウォッチングを実施しました。また 5 回目の開催となる「長岡京環境検定」は、44 名が受検しました。今後も、より身近に参加できる環境学習の機会づくりに取り組んでいきます。



バードウォッチング（カワセミ）

子どもエコ教室・環境教育ミーティング、放課後子ども教室等の実施

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
参加者数 400 人/年	参加者数 314 人/年

子どもエコ教室は、環境保全について考えるきっかけとして実施しています。台風の影響で 2 回の予定が 1 回の実施となりました。環境教育ミーティングは、環境の都づくり会議との共催で、計 4 回実施しました。今後は、これらの事業に代わり、市民企画講座として、環境学習の機会づくりを行っていきます。その他の事業としましては、たけのこ堀り体験や小泉川自然観察、竹炭焼き体験、エネルギー学習などの事業を環境学習の事業として実施しました。



②西山を活用した自然体験学習の推進

西山ファミリー環境探検隊の実施

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
4 回・100 人参加	3 回・104 人参加

西山ファミリー環境探検隊は、西山をフィールドにして、家族で自然を楽しんでもらう事業です。平成 25 年度から京都府立大学の学生サークルとの連携を始め、ボランティアや大学生の活躍によって活動自体が活気づき、徐々に参加人数も増えてきました。今後も、身近にある西山の魅力を知ってもらうとともに、家族や参加者同士の交流も深められるようなプログラムを企画していきます。



西山ファミリー環境探検隊

西山を活用した環境教育の実施

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
小学校 10 校	小学校 10 校

春の遠足では、10 小学校全校が西山周辺や西山キャンプ場へ自然観察などに行きました。遠足の際には、西山で活動するボランティア団体が同行し、児童への説明やアドバイスなどの支援を行っています。

薪ストーブを設置している神足小学校では、拾ってきた柴や薪を用いて、薪ストーブの火入れ式を行っているほか、西山に植樹する苗木を育てるため、ドングリのポット植えを行っています。



③環境啓発型イベントの開催、イベントへの出展

環境フェア・長岡京竹あそびなどのイベントの実施

平成 30 年度の目標	平成 30 年度の結果
参加者数延べ約 9,000 人/年	参加者数延べ約 5,810 人

平成 30 年度は、6 月にホテル観賞の夕べ（来場者 4,000 人）、8 月には打ち水大作戦（来場者 110 人）、9 月サポセンフェスティバル（来場者 500 人）、11 月には環境フェア（来場者 1,200 人）を開催しています。いずれも事業所や環境活動団体の皆さんと一緒に市が主催や協力をして実施しています。また自然環境の大切さや身近な環境への取り組みの必要性を啓発し、周知するためのイベントです。

